

## 十勝地方におけるカラフトモメンヅルとモメンヅルの分布

ひがし大雪博物館友の会カラフトモメンヅル調査グループ<sup>1)</sup>

### Distribution of *Astragalus schelichovii* and *A. reflexistipulus* in Tokachi district, Hokkaido

*Astragalus schelichovii* research group of Higashi Taisetsu Naturalist Club<sup>1)</sup>

#### はじめに

カラフトモメンヅル *Astragalus schelichovii* は、わが国では本州中部（中禅寺湖）と北海道北部・東部の河川（天塩川、湧別川、常呂川、網走川、音更川）に分布する（松井・林 1995）。十勝地方ではこれまで音更川の駒場橋から西上音橋までの河原（松井・林 1995）と上士幌町糠平の国道273号の道路脇で生育が確認されている（滝田謙讓氏私信）。松井・林（1995）によると、カラフトモメンヅルの一般的な生育地は、礫質から砂礫質の河原であるという。ケショウヤナギの分布からもわかるように十勝地方には礫質の川原をもつ河川が多い（川辺・斎藤 1991）ことから、音更川以外の河川にもカラフトモメンヅルが分布することが予想される。また、十勝地方にはカラフトモメンヅルの近縁種であるモメンヅル *A. reflexistipulus* が分布することが知られている（横山 1951）。そこで今回、音更川、十勝川、然別川、札内川、歴舟川の川原でカラフトモメンヅルとモメンヅルの分布について調査を行ない、若干の知見が得られたので報告する。

#### 調査地と調査方法

音更川と然別川は十勝地方北部の山岳地帯に源をもち、札内川は十勝地方西部の日高山脈に源をもち、これらの河川は、十勝平野の中央部で十勝

川に合流し太平洋へ注ぐ。一方歴舟川は、日高山脈に源をもち、南東に流れて太平洋に注ぐ。これらの河川は、いずれも礫の豊富な川原をもつという共通性がある。川原への接近が容易な橋りょう付近を中心に踏査し、本種の有無を確認した。調査日と調査地は以下の通りである。

1997年6月21日 音更川（牧水橋下流、萩ヶ岡橋上流、40号橋上流、士幌新橋上流、音更橋下流）

1997年7月2日 音更川（十勝新橋付近、音幌橋付近）

1998年6月20日 十勝川（十勝橋付近、清水大橋付近、新清橋付近、屈足27号地先付近）、然別川（万代橋付近、鹿追橋付近、上然別橋付近）、音更川萩ヶ岡54号地先付近

1998年7月3日 札内川（帯南橋付近、中札内橋付近）

1999年6月26日 歴舟川（歴舟川橋付近、ふるさと大橋付近、神居大橋付近）

#### 結果と考察

今回調査をした5河川のうちカラフトモメンヅルが確認されたのは、音更川のみであった（図1）。音更川では、最も上流の調査地点である牧水橋付近と最も下流の調査地点である十勝新橋付近で確認されなかったが、それ以外の調査地点では確認された。つまり、萩ヶ岡橋上流の標高310m付近（図2）から音幌橋下流の標高60m付近までの間

1) 安藤御史, 上田良吉, 稲場範昭, 川辺百樹\*, 北川雅啓, 久保進, 小葉松弘恵, 辻本涼子, 津村美穂子, 三木悦子, 森幸佑, 山田和幸, 山田真弓 (\*執筆責任者)

ひがし大雪博物館気付 〒080-1403 北海道河東郡上士幌町字糠平 c/o Higashi Taisetsu Museum of Natural History Nukabira, Kamishihoro, Kato-gun, Hokkaido 080-1403 Japan.

にカラフトモメンツルが生育することが明らかになった。

なお、河原以外の生育地として、滝田謙讓氏により上士幌町糠平の国道273号の道路脇（標高560m）で本種が確認されている。その後、丹羽真一氏（さっぽろ自然調査館）により糠平から然別湖畔に通じる道道726号の道路脇（標高600m）からも本種が確認された。また、本調査グループの川辺は、上士幌町幌加の国道脇の砂利を撒いたところ（標高570m）で本種の生育を確認した（図3）。この地域で道路工事などに使われる砂利は、音更川の萩ヶ岡橋付近で採集されたものである。したがって、道路脇における本種の生育地は、カラフトモメンツルの生育する音更川の氾濫原か

ら砂利とともに本種の種子が運ばれ、その後発芽して形成されたと考えられる。

モメンツルは、音更川の音更橋付近・音幌橋付近、十勝川の清水大橋付近・新清橋付近、祥栄橋付近（本調査グループの山田和幸が確認）、歴舟川の歴舟川橋付近・ふるさと大橋付近で確認された（図1）。また、幌加と十勝三股の旧国鉄士幌線の路盤でも生育が確認された（幌加は川辺が確認、十勝三股は田中康夫氏が確認）。これはカラフトモメンツル同様、砂利の中に入っていた種子が人為的に運ばれ発芽したものと考えられる。

このように今回の調査結果は、十勝地方におけるカラフトモメンツルの分布が、モメンツルの分布よりも限られていることを示唆する。

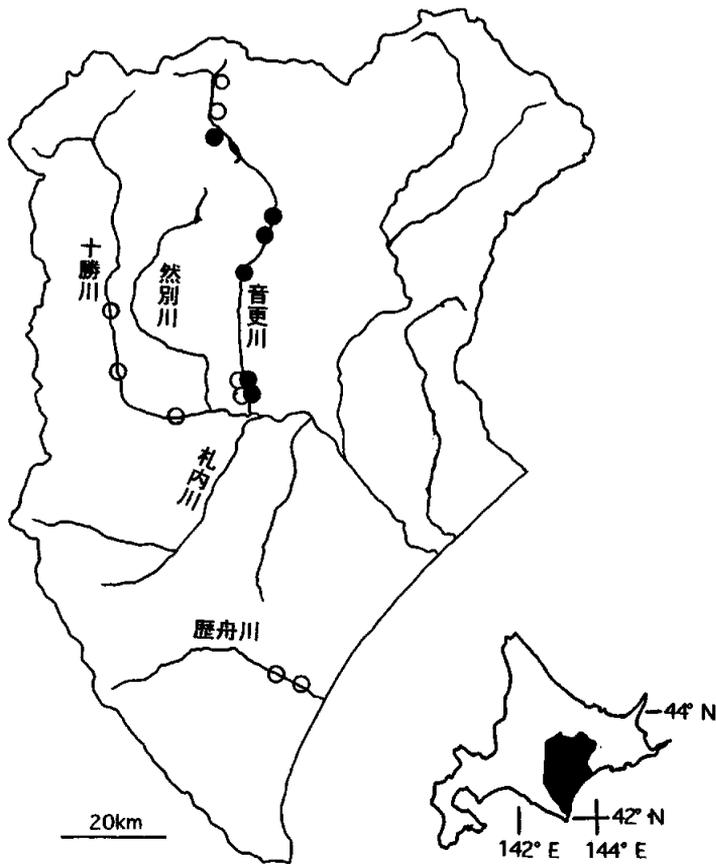


図1. 十勝地方におけるカラフトモメンツルとモメンツルの分布

Fig. 1. Distribution of *Astragalus schelichovii* and *A. reflexistipulus* in Tokachi district, Hokkaido.

●: カラフトモメンツル *Astragalus schelichovii* ○: モメンツル *A. reflexistipulus*



図2. 音更川萩ヶ岡橋付近のカラフトモメンヅルの群落  
Fig.2. *Astragalus schelichovii* community near Hagigakoka Bridge across the Otofuke river.

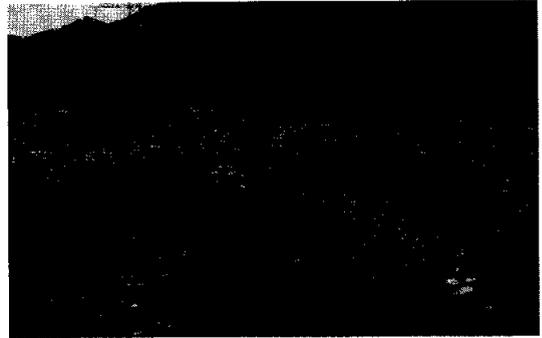


図3. 上士幌町幌加の国道わきのカラフトモメンヅル  
Fig.3. *Astragalus schelichovii* on the sides of arterial roads at Horoka, Kamishihoro.

### 謝 辞

英文の作成にあたり協力いただいた斎藤潤氏（ひがし大雪博物館友の会）に厚くお礼申し上げます。

### 文 献

- 横山春男. 1951. 十勝植物誌. P59. 帯広営林局. 帯広.  
松井洋・林廣志. 1995. 絶滅を危惧されるカラフトモメンヅルの現状. 植物研究雑誌, 70(5): 294-297.  
川辺百樹・斎藤新一郎. 1991. 十勝地方北部におけるケショウヤナギの分布とその要因. ひがし大雪博物館研報, 13: 25-31.

## Summary

We investigated the distribution of *Astragalus schelichovii* and *A. reflexistipulus* in the dry river beds of five rivers in Tokachi district from 1997 to 1999. *A. schelichovii* was found in the dry river beds of both lower and middle reaches of the Otofuke river. While *A. reflexistipulus* was found in the dry river beds of the lower reaches of both the Otofuke river and the Rekifune river, and middle reaches of the Tokachi river. These results of the investigation suggest that the distribution of *A. schelichovii* is more restricted than that of *A. reflexistipulus* in Tokachi district. *A. schelichovii* on the sides of arterial roads and *A. reflexistipulus* on the railbed were found in the upper reaches area of the Otofuke river. These were secondary habitats. It is thought that thus habitats were formed by germination of the seeds carried with the gravel from the dry river beds of the Otofuke river when the highways and railway were constructed or repaired.